



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	観光空間の構造とオーセンティシティに関する研究：多層的「ネットワーク」空間とオーセンティケーション概念を中心に〔論文内容及び審査の要旨〕
Author(s)	張，慶在
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(観光学)
Dissertation Number	甲第11562号
Issue Date	2014-09-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/57351
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	doctoral thesis
File Information	Kyungjae_Jang_review.pdf, 審査の要旨



学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（観光学）

氏名：張 慶 在

審査委員	主査	教授	山	田	義	裕
	副査	教授	山	村	高	淑
	副査	准教授	清	水	賢	一 郎
	副査	准教授	内	田	純	一

学位論文題名

観光空間の構造とオーセンティシティに関する研究
～多層的「ネットワーク」空間とオーセンティケーション概念を中心に～

本論文は第一部の理論編と第二部の事例研究編から構成されている。以下では、まず第二部の事例研究編で提示されているいくつかの事例研究の経験的研究としての価値について述べ、次に第一部の理論編で展開されている議論の理論研究としての意義について総評する。

事例研究編においては、大きく分けて二つの観光現象を対象に調査・実験そして分析を行っている。一つは今世紀に入ってから急増し、最近の観光研究において注目されている「コンテンツツーリズム」であり、もう一つは文化資産を観光資源とする「ヘリテージツーリズム」である。コンテンツツーリズムの調査については、メディアが誘発する「朝ドラ」観光や「大河ドラマ」観光を取り上げ、さらに既往研究で扱われている同種の現象とは異なる特徴をもつ、二つの新たなコンテンツツーリズムの事例について調査している。この調査・分析には、「地域のコンテクストと物語性」という観点が提示されており、コンテンツツーリズムの新たな現象を発掘したというだけでなく、分析の新たな視点を提案しているところがこの事例研究の独創的な点である。また、ヘリテージツーリズムについては、知床と札幌をフィールドに、文化遺産を巡る「ヘリテージトレイル」を ICT を活用しながら構築し、トレイルを巡るツアーを実験的に行なった。そして、理論編でその現代的意義を検討している AR (Augmented Reality) 技術を駆使して、文化遺産に対して価値付けを行うといった実験的試みを重ねて、その経験的効果を検証している。この試みは、単に新技術の観光への応用可能性を追求するだけのものではなく、著者も述べているとおり、地域を一つの博物館と捉える「エコ・ミュージアム」の概念を ICT 技術を活用して具体化するといった理論的射程をもつものと高く評価できる。第二部の事例研究において最も独創的な点は、現代のポップカルチャーと「伝統的」文

化遺産という一見質的に異なる現象を、時間軸上で連続する人類が生み出したかけがえのない文化資源として、後述する共通の理論的枠組みの中で分析した点にある。これは、ヘリテージツーリズム研究や観光文化研究の国際的潮流の最先端の議論にインパクトを与える先進的な試みである。

理論編における理論研究は、大きく分けて現代社会の場所・空間に関する議論とオーセンティシティ概念についての議論の二つに分けることができる。前者については、インターネットの進化により生まれた「多層的「ネットワーク空間」」が現実空間と相互に関係することで顕現する場を「AR スケープ」と名付け、その特性について、情報技術の進化の最新の動向を踏まえて考察している。特に後者については、AR スケープあるいはそこに現れる場所や対象への価値付けをオーセンティケーションとして捉えながら、観光研究におけるオーセンティシティの既往研究を踏まえた上で、「パフォーマンスによるオーセンティシティ」という新たなオーセンティシティ概念の理論的意義および経験的研究への応用可能性を考察している。「ネットワーク空間」で形成された価値や文化が物理空間へ影響を及ぼす拡張現実的な状況が、これからの観光をどのように変えるのかといった視点は独創的であり、いくつかの類似した萌芽的研究はあるものの、豊富な事例を用いて本格的な経験的議論が展開されたのはこの研究が初めてであろう。また、パフォーマンスによるオーセンティシティの概念も、単に理論的可能性に留まらず、最新の観光現象に適用してその経験的意義を考察している点も、先進的であり高く評価できるものである。

次に、審査委員会において審査員から提示された指摘について、理論と事例に分けて、代表的なものを一点ずつ報告する。理論編での理論的考察については、本研究で提案されている新たな場所・空間概念やオーセンティシティ概念が事例研究における各事例の経験的分析に十分には活かされていない、逆に言うと、理論編での仮説群に対する経験的事例による批判的検討がやや不十分ではないかとの指摘があった。次に事例編については、事例の選択において新規性の高い事例を取り上げている点は独創性や資料的価値の観点からは評価できるものの、バランスのとれた分析を行なうためには、適切な理論的サンプリングを念頭に置いた上で、先行して行なわれた事例から本論に関連するものを取り上げ、それら参考事例との比較検討が必要であるとの指摘があった。

理論的考察と事例分析の有機的関連がやや不十分な点、事例研究においてより広範囲な事例の比較検討が求められるといった点はあるものの、本論文がヘリテージツーリズムとコンテンツツーリズムという一見異なる現象が統一的に扱えることを経験的に実証した点、あるいはネットワーク空間が肥大化する現代社会において、場所・空間概念がどのように変容し、そこへの価値付けがどのように行なわれるかについて、独自の概念を仮定することで分析を試みている点は高く評価される。

よって、著者は、北海道大学博士（観光学）の学位を授与される資格があるものと認める。